

社会から愛され、 存続を望まれる企業を目指し、 その活動を「環境」「社会」「経済」 の3つの報告書で開示します。

企業は、社会の一員です。企業が社会から愛され、存続を望まれるためには、社会の持続的な発展に貢献することが前提条件になります。リコーグループは、「環境」「社会」「経済」のすべての視点から見て、優れた活動を行うとともに、活動に関する情報を適切に開示することが重要であると認識しています。リコーグループは、「環境」「社会」「経済」の3つの報告書で、情報を開示しています。当報告書は、リコーグループの「環境経営」に関する情報を開示し、関係者(ステークホルダー)の皆様とコミュニケーションを図り、環境経営の改善に役立てることにより、持続可能な社会づくりに貢献することを目的に発行しています。

■ 企業情報の入手方法

- ・環境経営情報
<http://www.ricoh.co.jp/ecology/>
- ・社会的責任経営情報
<http://www.ricoh.co.jp/csr/>
- ・IR(株主・投資家向け)情報
<http://www.ricoh.co.jp/IR/>
- ・社会貢献情報
<http://www.ricoh.co.jp/kouken/>
- ・情報セキュリティ情報
<http://www.ricoh.co.jp/about/security/>

■ 報告書ガイドラインについて

当報告書の編集にあたり、GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版(G3)」、環境省「環境報告ガイドライン2007年版」を参考に開示項目の過不足チェックを行い、可能な限りの開示を行いました。

■ 表紙の写真: アムールトラ

トラの生息域としては最北にあたる極東ロシアの森林に棲む最大のトラ。現在、野生では約400~500頭と推定され、絶滅が危惧されている。リコーは2004年から生息域の保全プロジェクトに参画。

環境



環境経営報告書

Sustainability Report
(Environment)

- ・環境経営の考え方
- ・製品に関する取り組み
- ・事業所に関する取り組み
- ・環境経営の基盤
- ・環境コミュニケーション/
環境社会貢献

社会

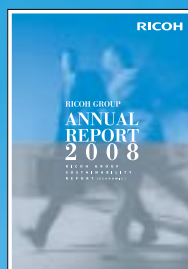


社会的責任経営報告書

Sustainability Report
(Corporate Social Responsibility)

- ・CSRの考え方
- ・誠実な企業活動
- ・環境との調和
- ・人間尊重
- ・社会との調和

経済



アニュアル・レポート

Sustainability Report
(Economic)

- ・経営方針
- ・経営成績
- ・財政状態

※印刷物としての発行は英語版のみです。ホームページ上では日本語版も掲載しています。
(http://www.ricoh.co.jp/IR/financial_data/annual_report/)

環境経営報告書2008の編集方針

リコーグループは、環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」を目指しています。当報告書は、環境経営の考え方や推進方法、活動事例、環境会計などをわかりやすく情報開示し、社会とのコミュニケーションを図るとともに、社会からの信頼を得るために発行しています。

●対象読者

リコーグループの環境経営に関する、現在および将来的なステークホルダーの方々を対象読者としました。単なる活動結果の報告に終わるのではなく、ポリシーや活動の進め方もあわせて紹介することで、環境保全活動の環が社会に拡がることを目指したコミュニケーションを心がけています。

●情報開示方針

グローバルな情報開示

環境問題は国境を超えた問題であり、事業や環境社会貢献活動を行う各国や地域での、地元に着した活動が重要です。そのため当報告書では、グローバルなパートナーシップに基づく環境経営活動を報告しています。

経済的側面に関する情報開示

リコーグループでは、経営のすべての分野に「環境」の視点を取り入れて、環境経営を実現するための改善を図っています。そのため、各部門やグループ全体の活動による環境保全効果と経済効果を把握し、「環境会計」による情報開示を行っています。

■「ビジネスと生物多様性に関するイニシアチブ」のリーダーシップ宣言

リコーは、2008年5月にドイツで開かれた生物多様性条約第9回締約国会議（COP9）で、「ビジネスと生物多様性に関するイニシアチブ」のリーダーシップ宣言に同意し、署名を行いました。これは、国連生物多様性条約の実施に向けて、ドイツ政府が企業に主導的な取り組みを求めたもので、リーダーシップを宣言した企業は、事業活動が生物多様性に与える影響を理解・把握し、その保全に努めることを約束します。

■国連グローバル・コンパクト

リコーは2002年4月、国連グローバル・コンパクト（GC）*1に日本企業として2番目に署名しました。また2007年6月にはGCの参加企業として「気候に配慮するビジネスリーダー綱領」*2に賛同し、署名しています。

*1 <http://www.unic.or.jp/globalcomp/organiz.htm>

*2 http://www.unglobalcompact.org/Issues/Environment/Climat_e_Change/index.html (英語)

■古紙配合率のエコ偽装について

2008年1月、リサイクル用紙の古紙配合率の不公正表示が明らかになり、製紙8社に対し、公正取引委員会による排除命令（景品表示法違反）が出されました。これに関連し、紙製品の販売者としてリコーグループは、製品をご利用のお客様をはじめ、多くの皆様に大変なご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。リサイクル表示などの偽装は、社会の環境意識の高まりに水を差す誠に遺憾な問題です。環境経営を実践するリコーグループとしても、今回の事件を教訓に自らの襟を正し、関係省庁や企業と連携しながら、偽装の撲滅に尽力してまいります。なお、今後のリサイクル用紙の販売方針につきましては、リコーホームページなどを通じて順次公開してまいります。

編集方針	2
対象読者/情報開示方針/目次	2
世界一の環境経営を目指して	3
環境経営と企業価値向上	5
2007年度環境経営の概況	7
報告書の構成と環境経営の全体像	9

特集/世界に拡がる環境経営の環

リコーグローバルエコアクション	11
仕入先企業と進めるCO ₂ 削減活動	13
中国で展開する環境経営	15

環境経営の考え方

私たちの目指す姿(Three Ps Balance)	17
持続可能な社会実現のためのコンセプト(コメットサークル)	18
超長期環境ビジョンに基づく環境目標・行動計画の設定	19
リコーグループ16次中期環境行動計画	21
2007年度までの環境行動計画とその成果	23

製品に関する取り組み

製品開発の考え方と環境技術開発	25
省エネルギー・温暖化防止	27
省資源・リサイクル	30
汚染予防	33

事業所に関する取り組み

省エネルギー・温暖化防止	37
(物流)	42
省資源・リサイクル	43
汚染予防	47

環境経営の基盤

環境マネジメントシステム	51
環境経営情報システム	53
環境経営評価手法	55
エコバランス(環境負荷の把握と目標設定)	57
コーポレート環境会計	59
環境コミュニケーション	61
環境社会貢献(生物多様性保全)	67
(環境ボランティア活動)	69

資料

報告組織の概要・主な事業内容	75
報告期間・報告範囲	76
創業の精神・環境綱領・経営理念・環境報告原則	77
2007年度リコーグループの環境保全活動	78
サイト別データ	79
2007年度に寄せられたステークホルダーの声	81
ワード別INDEX	82
第三者検証	83